

人工知能(SG)と人間らしさ

昨年末にChat GPTがリリースされ、二〇二三年前半は生成系AIの話題で非常に盛り上がりました。SNSではAIの使い方をよく目にするので、試しに使ってみると完成度の高さにとっても驚いています。

AIは文章を生成するとき学習させた大量の会話パターンの中から次に出てきそうな単語を複数予測し、その中から最もらしい単語を選んで文章を生成しているそうです。従ってその文章の特徴は「意外性のなさ」となるそうです。逆に言えば、人間らしい文章とは「意外性」ということになるでしょう。

テレビなどのメディアを観ていて感じるのは、次にどのような言葉が出てくるかが予測ができてしまうほど、意外性のない言葉に溢れていることです。近い将来、毒にも薬にもならない無難な言葉から真っ先にどが侵食していくことでしょうか。では意外性のある人間らしい言葉とは？その人の人生から溢れ出た魂のような言葉ということでしょうか。



眞英寺副住職 / 三浦雅彦

お盆のつどい法話

眞福めいふくについて

二〇二二年七月三日(日)

お盆のつどいは新ご法要です。盆を迎える皆様と一緒にこのたびは感染対策として、本堂の人数を制限し、YouTubeの配信も併用いたしました。ここで私たちが阿弥陀での配信も併用いたしたく大事なご縁と、当日の法話のダイジェスト版を掲載切に勤められています。

「冥福を祈る」という言葉

新盆の法要で集まったのは供養のためということが最も大きな理由でしょう。一般的にその供養とは追善供養を指します。

追善供養とは、生きている人が亡くなった人の冥福めいふくを祈って善行を積むことを指

す。一般的には供養とも言います。故人のために善を積むことで故人がよりよい世界に生まれ変わるように努めること。

何となくの意味は通じるのではないかなと思います。いまの説明に「冥福」という言葉が出てきたので、この言葉に

ついで確認したいと思います。

冥福とは、死者がいく先である冥界（冥土・冥途）での幸福をいう。

ではその冥界とはどのようなことを言うのでしょうか？

冥界（冥土・冥途）とは死後の亡者がさまよいいく世界をいう。特に地獄道に通ずる。

とあります。閻魔様がいるような世界と考えるとわかりやすいかもしれませんが。「あなたは生きている間に〇〇という悪事をはたらきました。したがってあなたは地獄行きです」このようにイメージするとわかりやすいかもしれません。

ここで気づくのは冥界（冥土・冥途）というのはかなりひどい世界だな

ということですが。「冥福を祈る」という言葉には、亡くなった方の死後の幸せまで気遣う気の利いた言葉というイメージがあります。ところが冥福の「冥」は冥土をあらわし、その冥土とは死後の亡者が閻魔様に裁かれて地獄に通じていくような世界を指すのです。つまり、冥福という言葉には亡くなった方を望ましくない世界に送り込むという意味が内に含まれている言葉なのです。

本当にそのような世界があるかどうかはわかりませんが、何気なく使う「冥福を祈る」という言葉には、亡くなった方は冥土というひどい世界にしていることを前提としていることは確かかなのです。はたして、そのような言葉がお悔やみの言葉として本当にふさわしいのかどうか、一度考えてみる必

要があるのではないのでしょうか。意味を知ったうえで使うかどうかは本人の自由です。

普段から何気なく使っている言葉でも意味を知らずに使っている言葉がかなりあるのではないのでしょうか。たとえば「他力本願」という言葉も誤った使い方が定着したものと辞書に記載されています。「自分の努力でするのでなく、他人がしてくれることに期待をかけること。人まかせ」という意味でとらえている方がほとんどだと思いますが、これは誤りです。本来の意味は「自分の修行によってさとりを得るのではなく、阿弥陀仏によって救済されること」が元々の意味です。

私たちは日ごろから日本語を使っているのに、まさか自分が本来の意味を

知らずに使っているとは思ってもいいわけですか。ところが知らずに使っていることもある、そのことに目を向けていかなければなりませんね。

「冥福」という言葉をインターネットなどで調べると浄土真宗のお葬式では使ってはいけない言葉として紹介される場合があります。このように教えられると「どうしてだろう」という大事な疑問が抜け落ちてしまうのです。使ってはいけない言葉ではなくて、意味を知ったうえで一人ひとりが使うかどうかを判断する、それが大事なことだと思います。言葉というのは意味を理解したうえで使ってほしいと思います。今日は冥福という言葉を取り上げました。

「冥福を祈る」以外の言葉

この話を聞いたみなさんは「では『冥福を祈る』に代わる言葉があるの?」という疑問が浮かぶと思います。その言葉はたとえば「お悔やみ申し上げます」や「ご愁傷様です」といいます。しかしこれらが正解かどうかはわかりません。この言葉を掛けるのはいつ誰に対してでしょうか。恐らく大切な方を亡くされたご遺族に対して掛ける言葉ではないでしょうか。そうするとその気持ちに寄り添った言葉であることが肝心なのではないでしょうか。以前、とある方のお通夜でお会いした方が神妙な面持ちでポツンと「ご愁傷様です」とだけご遺族に伝えていました。定型文の言葉にはなりません、その方の雰囲気から悼んでいる姿が印象的で今でもよく覚えています。そのような経験から言える

ことは、ご遺族に掛ける言葉として、どのようなものがふさわしいのか?その疑問の答えはきつとあなたの中にあるのではないのでしょうか。その訃報に対してあなたが何を感じたのか、それを使い古された紋切り型の言葉をただ使えばいいのではなく、あなたが感じたその感じたことを伝える。それが大事なことだと思いますし、どのような言葉であれ、ご遺族の気持ちに寄り添った言葉になるのでしょうか。言葉にするというのはそれだけ重いことなのだと思います。



真英寺法話チャンネル

このお話には続きがございます。続きをお聞きになりたい方は下記QRコードからどうぞ。



<https://youtu.be/LFdXOZhDD48?t=11>

新盆のつどい
追善供養
について
考えてみる

2022/7/3



お寺の掲示板

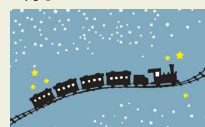
「けれどもほんとうのさいわいは一体何だろう」

ジョバンニが云いました。

「僕わからない」

カムパネルラがぼんやり云いました。

『銀河鉄道の夜』宮沢賢治



五月に『銀河鉄道の父』という宮沢賢治の父が主人公の映画が公開されました。このタイミングで『銀河鉄道の夜』から印象的な言葉を取り上げたいと思います。この物語では「ほんとうのさいわい（本当のさいわい）」ということがテーマの一つになっていると私は受け止めています。児童文学なので一度は読んだことのある作品だと思えますが、あらずじを少々。

お祭りの日、主人公のジョバンニは一人で丘に寝転び、星を見ています。ふと気がつくとき、なぜか彼は銀河を旅する銀河鉄道に乗っています。そこには友人のカムパネルラもいて、二人は美しい銀河を旅します。しかし、途中でカムパネルラはいなくなってしまうのです。

カムパネルラがいなくなってしまう直前のシーンに冒頭のセリフが出てきます。私たちは誰もがみな、善いとされること（＝それぞれのさいわい）を求めて生きています。どのような人でも自分にとって善いとされることを求めているのです。しかし、その善いこと（それぞれのさいわい）が互いに合致しないことから争いが生まれ

るのです。そういうことから考えると賢治の考える「ほんとうのさいわい」とは、私たちが考える幸せ（それぞれのさいわい）ではないというところが想像できます。私にとっては幸せでも、相手にとっては幸せではない時もあるのです。そのとき「けれどもほんとうのさいわいは一体何だろう？」というジョバンニの疑問が自然と湧き出てくるのです。しかし、カムパネルラが言うように「ほんとうのさいわい」というものが「わからない」のです。

「わからない」からこそ、「自分にとってのさいわい（＝幸せ）」を求め続けて人生を送りますが、それはどうやっても「ほんとうのさいわい」にはなりません。「ほんとうのさいわい」とはこういうものだとして規定した途端に、それは誰かの「不幸」になってしまうかもしれないのです。だからこそカムパネルラが言った「わからない」が大事なのだろうと思います。私たち人間にはわからない。ここでわからないから諦めるのではなく「ほんとうのさいわい」がわかりえないことがわかった、だから「ほんとうのさいわいとは一体何だろう」と最後まで求め続けていったのが賢治なのだと感じます。

私たちはいつでも答えを要求します。しかしその答えをもらったとしても他人のもので。他人の答えに安住しようとする私たちに「問い続けることが人間の営みである」と優しく語りかけているのではないのでしょうか。

ご門徒控室（洋間）

内装工事完了のお知らせ

前号で告知した通り、四十年以上にわたり、控室としてご利用いただいていた洋間をこのたびリフォームいたしました。内装はすっかり古びてお部屋の中も薄暗いというお声をいただいていたが、リフォーム後は明るくなり、床暖房が入りましたので冬でもとても暖かく過ごすことができます。

今後とも皆様からお預かりした大切な浄財は真英寺へお参りされる方々のために役立ててまいります。



これまでの控室



内装を一新した
モダンな控室

真英寺寺報「慈現」第七号

発行 真英寺（真宗大谷派 京都東本願寺）

東京都新宿区若葉二丁目一番三

TEL 03-3351-5955

E-mail m-miura@senei.jp

URL <https://www.sinei.jp/>

